

第2回東京都聖火リレー実行委員会について

1. 開催日

平成30年10月24日（水）

2. 出席委員

会 長：猪熊純子 東京都副知事
副会長：西川太一郎 特別区長会会長（荒川区長）
長友貴樹 東京都市長会会長（調布市長）
河村文夫 東京都町村会会長（奥多摩町長） ほか

3. 議題

（1）報告事項

- ・聖火リレーの概要について

（2）協議事項

- ・東京都聖火リレーのルート・セレブレーション会場の考え方について
- ・今後のスケジュール等について

4. 主な発言

- ・多くの人に見ていただけるルートを選び、感動が残るリレーにしていきたい
- ・62区市町村を全て巡ってくれることは嬉しいことであり、島しょ地域の巡り方については、今後さらに検討を進めてほしい
- ・各地域にバランスよくセレブレーション会場を配置する考え方は良いが、選定に際しては議論を深めてほしい
- ・セレブレーション会場の選定にあたっては、雷雨が発生した場合などに退避できるような屋内施設があることも考慮してはどうか
- ・多くの人に見ていただくため、障害者がアクセシビリティの不安なく参加できる会場を選定することも、一つの視点として考えてほしい

第2回東京都聖火リレー実行委員会 次第

平成30年10月24日（水） 16：00～17：00

東京都庁第1本庁舎 16階 特別会議室 S6

1 開会

2 議事

（1）報告事項

- ・ 聖火リレーの概要について

（2）協議事項

- ・ 東京都聖火リレーのルート・セレブレーション会場の考え方について
- ・ 今後のスケジュール等について

（3）その他

3 閉会

東京都聖火リレー実行委員会 出席者名簿

職 名	団体名・職名	氏 名	備考
会 長	東京都副知事	猪熊 純子	
副会長	特別区長会会長（荒川区長）	西川 太一郎	
副会長	東京都市長会会長（調布市長）	長友 貴樹	
副会長	東京都町村会会長（奥多摩町長）	河村 文夫	
委員	東京都オリンピック・パラリンピック準備局長	潮田 勉	
委員	警視庁オリンピック・パラリンピック競技大会 総合対策本部副本部長	後藤 友二	
委員	東京消防庁次長	安藤 俊雄	代理
委員	公益財団法人東京都体育協会理事長	並木 一夫	
委員	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会会長	白石 弥生子	
委員	公益財団法人東京陸上競技協会理事長	中野 人志	

第2回東京都聖火リレー実行委員会

<概要>

2018.10.24

1. 聖火リレーの概要について

2020年3月12日（木） ギリシャ・古代オリンピア市 聖火採火式

3月19日（木） ギリシャ・アテネ市にて聖火引継式

3月20日（金） 宮城県にある航空自衛隊松島基地に聖火到着

3月20日（金）～25日（水） 宮城県・岩手県・福島県で順次2日ずつ「復興の火」として展示

3月26日（木） 福島県から日本全国を巡る東京2020オリンピック聖火リレーがスタート

7月10日（金） 東京都聖火リレー初日

↓
全62区市町村をいわゆる「一筆書き」となるルートで15日間を巡回

★毎日のイベント

＜必須のもの＞

・セレブレーション 毎日（7/24を除く）の最後に行う聖火の到着を祝うセレモニー。 **14回開催**

＜任意のもの＞

・出発式 毎日の出発時に実施

・ミニセレブレーション 各区間のリレーの途中で実施

2020年7月24日（金） 東京都聖火リレー最終日

2. 東京都聖火リレーのルート・セレブレーションの考え方について

(1) 東京都聖火リレーのスタート及びゴールについて

<考え方>

- 組織委員会が示すオリンピック聖火リレーコンセプト「希望の道を、つなごう。」を体現できる場所
(支えあい、認めあい、高めあう心でつなぐ聖火の光が、新しい時代の日の出となり、人々に希望の道を照らします。)
- 日本国内を巡回した聖火が、開催都市・東京都に運ばれたことを世界に発信するのに相応しい場所
- 出来るだけ多くの人々が見に行くことができ、安全かつ確実に実施できる場所(車列の待機場所の確保も必要)

<参考> 聖火リレーキャラバン隊のイメージ (リオ2016大会)

①
先行車



聖火ランナー配置バス



②
本隊車



聖火ランナー回収バス



③
後押車



※出発式等のイベント実施にあたっては、隊列の待機スペース(駐車場等)が必要

(2) セレブレーションの会場等について

<セレブレーション会場のイメージ>

- 1,000から3,000名程度の観客が収容できること

- 「ステージエリア」

「観客エリア」

「会場内走行路（聖火ランナーが入場する花道）」の3要素が確保できること

- 聖火（裸火）を扱うことができること など

※セレブレーション会場は、組織委員会と調整の上、**都道府県実行委員会が確保**

<留意すべき事項>

- 東京都内全域で広く気運醸成を図ることが重要なため、セレブレーション会場は**各地域にバランスよく配置**
- 区市町村の実施意向も踏まえながら検討

(3) ルートの策定について

<組織委員会が示すルート選定の基本的な考え方（第1回実行委員会で提示）>

- 日本全国47都道府県を回り、出来るだけ多くの人々が見に行くことができるルート
- 安全かつ確実に聖火リレーが実施できる場所

その上で

- 地域が国内外に誇る場所や地域の新たな一面を気づかせる場所
- 聖火が通ることによって人々に新たな希望をもたらすことができる場所

<前回の議論>

- 東京都内全域で開催気運が盛り上がるよう、**都内62区市町村を全て巡るルート**
- 地域が国内外に誇る場所として、

東京を象徴するランドマークやビュースポット、

1964年大会のレガシーや東京2020大会新規会場などを巡回してはどうか

（第1回実行委員会で提示）

3. 今後のスケジュール等について

2018年12月下旬 第3回実行委員会

- 聖火リレールート巡回順案の審議
- セレブレーション会場案の審議

2019年 （引き続き、実行委員会を開催）

- 聖火リレールート詳細案・セレブレーションの具体的内容の検討
- ランナー選出計画案の策定及び公募・選考の実施 など

2020年

- 聖火リレーの実施

<参考> 実施にあたっての東京都と区市町村の役割分担の考え方

- 都内全域で大会成功に向けた気運醸成を図るため、全ての区市町村を巡回
 - 観衆、地域住民など多くの人が大会に参加し、オリンピックに積極的に参画できる貴重な機会
 - 聖火リレーは、地域の魅力を世界に発信できる場
- そのため、聖火リレーの成功に向けて、**都と区市町村が連携し**、適切な役割分担に基づいて、
聖火リレーを実施していく